

「教職相談室」開設から5年

茗溪会筑波事務所

茗溪会の筑波事務所が筑波大学学生会館内に設置されて5年目になる。その間、ここを利用した「教職相談室」を常時開いてきた。これは、教職を目指す学生、大学院生のための就職支援の一環として、大学とタイアップしながら進めてきたもので、筑波事務所を受付および相談室とし、相談員として学生宿舎管理事務所長および筑波研修センター所長の協力を得ながら行ってきた。大学側からは、学生への呼びかけと、相談員として教員免許更新推進室の市毛栄教授が担当している。



①一般的な相談28件(17・3%)、②論文作文の指導88件(54・3%)、③集団討論に関する相談2件(1・2%)、④その他、面接や模擬授業などに関する相談44件(27・2%)という数字であった。

こうした相談状況について、教職相談室では今後の課題を次のようにまとめている。

- (1) 教職相談室の存在は徐々に学内にも認知されてきており、教職のための情報提供の場としても今後の整備・充実が望まれる。
- (2) 教員採用試験の高度化に伴い、大学として受験対策に向けた体制、指導方法を検討する必要がある。
- (3) 特に、第一次試験(小論文、集団討論・個人面接)に対応できる体制づくりを行うことと、現状としては、相談員への負担もかなり大きくなりつつある。
- (4) 教員採用試験後における情報収集と分析を行うとともに、受験希望者へ提供することが必要である。

受験希望者へ提供することが必要である。

教職相談で学生を支援

学生宿舎管理事務所長 高野大二郎

平成19年の年末頃であった。茗溪会の江田副理事長(現理事長)から、「茗溪会筑波事務所の開設に際して、教職を目指す学生のために、茗溪会として何かお手伝い出来ぬものだろうか。ついてはあなたの方にも協力いただければありがたい。」というお話をいただいた。研修センターの染谷信洋所長(当時)とともに大賛成した。江田副理事長は早速、大学側(当時の教育担当 工藤典雄副学長)と話を進められ、翌20年度が始まると、4月に全学学群教職課程委員会をスタートさせ、5月27日には、第1回の相談が開始された。

最近の顕著な傾向として、3月に茗溪会が実施している教職受験対策研修会に参加した学生が多く、相談の大部分が論文文に関するものである。当然のことながら受験間近となる5月から7月頃までに集中しており、一人で都合10回を優に超える者もいて夏場は大盛況である。しかし、年間を通じて開設している「一般相談の窓口」の方は思ったより少なく、学生に対して認知度をどう高めるか、などということを考えながら今は進めている状況である。

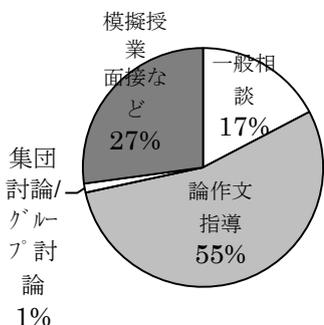
学生は非常に熱心であり、純粹であり、クレバーである。幾多の困難が待ち構えている教育界に、分つていながら敢えて飛び込んで行くこうとするこの若さと気概に、さすが筑波大学の学生だ、と何時も感心させられている。この若者たちに絶大な期待を込めて「いい先生になって下さい」といつも心からエールを送っている。

さすが筑波大学の学生だ、と何時も感心させられている。この若者たちに絶大な期待を込めて「いい先生になって下さい」といつも心からエールを送っている。

その案内の主な内容は、「自分は教師に向いているか」「教師を目指すにはどんな勉強が必要か」「良い先生になるには」「採用試験の準備・対策」「教師になって良かったこと・教師のやりがい」「学校の実情」などであり、さらに教職に対する不安、悩み事、ぜひ聞いてみたいことなどをあげて呼びかけている。

昨年(平成23年度)の相談状況は別掲図のように、全体の相談件数は延人数で140件であった。その内訳は、

相談/指導の内容



相談人数

